



日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会 2022 年度学術大会

日時 : 2023 年 3 月 17 日(金) 19:00~21:00

開催形式 : Zoom ウェビナー

定員 : 500 名

申込方法 : 下記 URL または 2 次元コードから参加登録画面(Peatix)に
アクセスして事前参加登録をお願いします

URL: <https://peatix.com/event/3485654/view>

参加費 : 会員:無料, 非会員:500 円

申込締切日:2023 年 3 月 15 日(水)

司会 : 学術研究委員長 木口 雅夫



プログラム

19:00~19:05 開会挨拶

JSAiT 会長 阿部 一之

【セッション 1】

19:05~19:20 会長講演

「**学会設立で新たな展開を目指す!**」

JSAiT 会長 阿部 一之

【セッション 2】

座長 学術研究委員 (産業医科大学病院) 川端 潤

学術研究委員長 (広島大学病院) 木口 雅夫

19:20~20:00 会員による発表

① 「**沖縄県内の Ai (Autopsy imaging) 実施状況について**」

社会医療法人 友愛会 友愛医療センター 井戸 昭博

② 「**死後の個人情報と画像データの取り扱いについて**

～ **先行研究調査との比較報告** ～」

小山記念病院 小沼 徹哉

【セッション 3】 座長 学術研究委員 (佐賀大学医学部附属病院) 尾形 学

20:00~20:50 **特別講演**

「**AiCT を用いた法医解剖での死因診断**」

東京女子医科大学医学部法医学講座法医学分野 教授・基幹分野長

木林 和彦 先生

20:50~21:00 事務局報告

JSAiT 事務局長 (筑波メディカルセンター病院) 田代 和也

21:00~21:05 閉会挨拶

JSAiT 副会長 (東北大学病院) 小林 智哉

【セッション 1】 会長講演

| | |
|-------|---|
| 演題名 | 和文： 学会設立で新たな展開を目指す！ 英文： Aiming for a new development with the establishment of the academic society! |
| 演者氏名 | ○阿部一之 |
| 演者所属名 | 純真学園大学非常勤講師 |
| 演題抄録 | <p>「学会設立で新たな展開を目指す！」</p> <p>日本オートプシー・イメージング (Ai) 技術研究会は 2019 年 5 月設立、同年 8 月の設立総会で将来的に学会に移行することを目指していた。2021 年度では COVID-19 感染対策に関する緊急アンケート調査の実施、医療の質安全学会シンポジウム企画へ本研究会が中心となり参画して好評を博した。学術大会、学術セミナーをはじめ本研究会の特色である共同研究班が積極的に活動を行なった成果の報告会も 2021 年度、2022 年度内に開催された。</p> <p>これらより日本オートプシー・イメージング (Ai) 技術研究会という団体名称を変更して学会設立に向けて準備する段階に至ったと判断し、2022 年度事業計画案に将来構想委員会を設置して検討を行うことを提案して承認された (2021 年度 (第 3 回) 総会、2021 年 12 月 15 日)。</p> <p>本研究会の活動を振り返るに準備はできたと考える。学会設立という高いハードルを乗り越えて山頂を目指すことから新たな展開が広がる。</p> <p>全国から Ai に熱心な診療放射線技師を中心に、学術研究に意欲的な仲間を結集して、国内唯一の Ai にかかる学会設立を目指す。</p> <p>参考</p> <ol style="list-style-type: none">1)阿部一之：Ai で新たな展開を目指す診療方放射線技師、Rad Fan 17(3)53-56 :20192)阿部一之：日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会発足の意義 Rad Fan18(3) 41-45:20203)阿部一之：「日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会」から学会設立に向けて Rad Fan20(3) 43-47:20224) 阿部一之：Ai の学会設立で新たな展開をめざすに Rad Fan21(3) 39-43:2023 |

【セッション2】 会員発表①

| | |
|-------|--|
| 演題名 | 和文： 沖縄県内の Ai (Autopsy imaging)実施状況について 英文： Current status of Ai (Autopsy imaging) in Okinawa Prefecture |
| 演者氏名 | ○井戸昭博 |
| 演者所属名 | 社会医療法人 友愛会 友愛医療センター |
| 演題抄録 | <p>【目的】 沖縄県内での Ai (Autopsy imaging、死亡時画像診断)が実施されている状況が今まで把握できていなかった。この度、沖縄県内の中規模病院を対象にアンケート調査を行ない、沖縄県内の Ai 実施状況の現状と課題について報告する。</p> <p>【方法】 沖縄県内の中規模以上の 17 施設を対象に 2022 年 1 月から 11 月までの Ai の件数や撮影実施状況等の調査項目をリストアップしてアンケート調査を実施した。 調査項目は、1)Ai 認定技師はいますか、2) Ai ガイドラインについて、3) Ai 検査の件数、4)Ai 検査のマニュアル、5)Ai 検査に使用するモダリティー、6) 撮影プロトコル、7)オーダー、8)撮影条件 9)逐次近似再構成 10)骨条件・MPR などの作成、11)小児 Ai の実施状況、12) 小児 Ai に使用するモダリティー、13) 読影補助 (画像チェック) 14) 読影チェックシート、15)放射線科医師の読影、16) 外部レポート、17) 同意書・承諾書、18) 料金設定、19) ボリュームデータの保存、19)CT 撮影範囲、20) 課題・質問などである。</p> <p>【結果】 沖縄県 17 施設 (100%の回収率) から回答が得られた。主要な調査結果として Ai ガイドラインを知っている (41%)、Ai 検査のマニュアルがある (41%)、Ai 検査に使用するモダリティー(CT100%)、逐次近似再構成を利用(100%) 小児 Ai の実施している (24%)、読影補助 (画像チェック) (0%)、同意書・承諾書がある (12%)、料金設定がある(35%)などである。</p> <p>【考察】 今回のアンケートは、Ai 検査を施行している中～大施設のみの回答であったためその他の施設にはアンケートを行っていない。今後、CT 装置を有する施設にも回答をいただき沖縄県の Ai 検査の状況を把握できる機会を設けたい。Ai 認定診療放射線技師の普及、施設への情報提供、ガイドラインの周知など課題が多い。 ・診療放射線技師だけでは Ai の普及は難しい。施設全体で Ai への認知度を高められたら。コロナの影響で施設間の交流が途絶えていたが、今回のアンケート調査結果をふまえ、施設間での Ai についてさらなる認識を深めてもらう更なる活動が期待される。</p> <p>1) 本研究の概要は第 14 回オンライン九州 Ai 研究会沖縄大会 (2023 年 2 月 4 日) で発表した。 https://ai-kyushu.wixsite.com/site/post/第 14 回九州 ai (autopsy-imaging) 研究会開催のお知らせ</p> |

【セッション2】 会員発表②

| | |
|-------|--|
| 演題名 | 和文： 死後の個人情報と画像データの取り扱いについて ～ 先行研究調査との比較報告 ～ 英文： Handling of personal information and image data after death ～ Comparison report with previous research survey ～ |
| 演者氏名 | ○ 小沼徹哉 1) 阿部一之 2) 大元謙二 3) 武井宏行 4) 中戸研吾 5) 吉田昌弘 6) |
| 演者所属名 | 1) 小山記念病院 2) 純真学園大学非常勤講師 3) 愛媛大学医学部附属病院 4) つくば国際大学 5) 熊本大学病院 6) 筑波メディカルセンター病院 |

演題抄録

【目的】

死因究明等の推進に関する法律による「警察等が取り扱う死体の死因および身元の調査等に関する法律」にもとづく警察依頼や「医療事故調査制度」に伴う Ai (Autopsy imaging) による死後の画像データが第三者に閲覧出来ないようにするなど、死後のプライバシー保護の観点から画像ネットワークシステムのあり方について検討を行う必要があると研究テーマとして取り組んでいる。本研究は、第 17 回オートプシー・イメージング学会学術総会で阿部, 尾形, 光岡, 北村らの発表 1) を先行研究とし、本研究班にて死後のプライバシー保護の観点から画像ネットワークシステムのあり方について調査を実施したため、先行研究との比較・分析を目的とした。

【方法】

自施設の Ai における体制・運用・管理等について、日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会の会員 95 名にアンケート調査を実施した。調査項目は大別し 9 項目 30 設問、有効回答の 31 回答 (回答率 32.6%) に対してデータの集計・分析を行った。先行研究は、九州 Ai 研究会に出席した 59 施設 28 回答(回答率 47.6%)からのアンケート調査であり、この調査に対して共通項目・設問の抽出を行った。共通項目は 8 項目 (1.アクセス権, 2.Ai 画像データの保存, 3.警察への協力, 4.匿名化, 5.暗号化, 6.カルテ開示, 7.読影レポート, 8.トラブル経験) 13 設問であり、この設問に対して比較・分析を行った。

【結果】

共通設問から比較・分析の結果、JSAiT が実施したアンケート調査と先行研究の調査結果は 13 設問中 9 設問 (69%) が同様な比率となる結果であった。JSAiT が実施したアンケート調査は先行研究に対して調査対象を広げた調査であり、今回の比較から全国的にどの地域でも似たような結果となる可能性が示唆された。すなわち、双方の発表で結論付けた「画像保管システムで Ai の画像データが第三者に閲覧できる可能性がある」という見解と「死後の画像データや診療情報の取り扱いについて指針等の整備が必要である」ということも同様に示唆される。

今回の比較調査において Ai という領域に関わる施設・会員へのアンケート調査は、両方の研究会に属している回答者である可能性がある。この調査の対象や項目を広げ、幅広く情報を収集するための工夫が今後の課題である。

1) 阿部一之, 尾形学, 光岡美幸, 北村茂利, 「死後の画像データの管理について」第 17 回オートプシー・イメージング学会学術総会, 2019 年 8 月 24 日 熊本県医師会館